

広がる交流の輪

岩手大生が読み聞かせや合唱を披露

村図書室まつり、お楽しみ会（村教委主催）が8月5、6の両日、ふれあい交流センターと社会体育館で開かれました。

岩手大学のサークル「キッズ」（稲毛冬馬代表）の学生20人が参加し、絵本の読み聞かせやゲームなどを通じて園児や児童と交流を深めました。両イベントは同大地域連携

促進事業と提携して実施。お絵かきクイズや手つなぎ鬼などのゲームも人気で、子どもたちは元気いっぱい走り回り、お兄さんお姉さんと楽しい時間を過ごしました。

同大教育学部4年の稲毛代表は「子どもたちの笑顔を見ると、うれしく元気をもらえます。どれも楽しく充実した体験でした」と笑顔で話していました。

サマーコンサートも

岩手大合唱団（李沢有希委員長）のサマーコンサートが8月20日、自然休養村管理センターで開かれました。愛唱歌の合唱や村のてぼかい合唱団（森田真奈子代表）との共演など会場いっぱいにさわやかなハーモニーを響かせました。

岩手大合唱団のサマーコンサートは村では初めて。合唱団に村出身で同大教育学部3年の竹下雪乃さんがいること



てぼかい合唱団とジョイントコンサートをした岩手大合唱団

などから企画されました。当日はメンバー約40人が来村し、200人ほどの聴衆の前で「夏は来ぬ」「アイスクリームの歌」や、ミュージカル「わすれられないおくりもの」を披露。てぼかい合唱団とのジョイントコンサートでは「イーハトーブの風」を歌い、観客から大きな拍手が贈られました。

同合唱団は22日まで村に滞在し老人ホームの慰問や野田中、普代中などで訪問演奏会を開きました。

「太田名部物語」を発刊！

ページをめくるたびに巡る思い出

300枚を超える貴重な写真をふんだんに使い、太田名部地区の昔から現在までをたどった「太田名部物語・この地に生きたすべての人に」が完成しました。冊子はA4判、115ページ。明治から現在までの懐かしい風景や、17人の戦没者、昭和8年の三陸大津波襲来後の写真、同30年代の演芸会の様子、同36年の三陸フェーン大火の悲惨な現状、ワカメひろいやアワビ漁など海の街のさまざまな風景がとびらかれています。

「懐かしい写真がいっぱい昔を思い出して涙がでます」「よく300枚以上の写真が集まったなあと感じしました」と大反響。

太田名部物語をつくる会代表の太田茂実さん(57)は作成に当たり「地区の皆さんに喜んでもらえる何かを作りたかったです。貴重な写真や資料を貸してくださった皆さんのお陰です」と感謝していました。

元村郷土史編纂委員の熊谷文弥さん「東京都在任中も「素晴らしい写真集で感心しました。毎日見たいですが、編集に携わった皆さんに対する太田名部地区の方々の信頼と協力があつて完成したことと感じられます」と絶賛していました。

冊子は300部印刷し、約100部は同地区の全世帯に配布し、残部は希望者に1冊



完成した太田名部物語

3000円で販売しました。残念ながら残部はない状況ですが、村図書室に貸し出し用として2冊購入していますので、まだ見ていない方はぜひ、どうぞ。